

# 情報化時代の 世界的教育研究拠点 形成をめざして

金沢大学長 中村 信一



情報化とグローバル化の荒波の中で、社会が大きく変わろうとしています。世界のどこかで発せられたニュースは、たとえ発端が小さなものでも、またたくまに映像と共に世界を駆けめぐり、世界中に大きな影響を与えるポテンシャルを持っています。我々は、自分の周辺の物事のみに関心を寄せるだけでは不十分で、常時、世界の動きをウォッチし、自分の立ち位置・進むべき方向を見定めて進む必要があります。

その中であって、本学は国立大学法人化に加え、学域再編という二つの大きな改革を実現し、いままさに新たな一步を踏み出したばかりです。これからは、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を大学憲章に掲げる本学が、「21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資する」ため、社会の激変を乗り越えて、これからの大学に要求される道筋を見定めて、改革の実質化を押し進めていく必要があります。

学長就任にあたり、私は本学が「日本のベスト10大学になる」ことを大きな目標に掲げました。国立大学法人化後、大学の運営費交付金は年々削減の一途をたどり、大学の財政状況は大変厳しい状況にあります。このような状況下であって、

高い教育・研究レベルを維持し、日本のベスト10大学へと本学を導くには、構成員である教職員一人ひとりが、自律的に考え、大学を創造していく能力を発揮することが大いに要求されます。21世紀の社会はまさに情報戦です。刻々と変化する社会情勢の変化への迅速な対応、少子化時代における優秀な学生の獲得のための魅力的な大学造りと広報、大学の知の情報発信と社会還元、ICTを活用した教育・研究・業務の充実と効率化、大学運営におけるコンプライアンスマネジメントと非常時の危機管理など、長期的展望に立った情報戦略なしにこの荒波を乗り越えることは不可能です。

本学の情報戦略を効果的に推し進めるにあたり、総合メディア基盤センターはその中核を担うべき存在といえるでしょう。ICTを活用した新しい教育法の提言、高度な教育・研究に資する情報利用環境と学内業務システムの融合化、安心・安全なネットワーク環境の整備など、当センターが掲げるミッションは、いずれも本学の情報戦略の根幹を支える必要不可欠の事項です。今後、総合メディア基盤センターが、その機能を存分に発揮し、本学の情報戦略において積極的に牽引されることを強く希望します。